

大正時代に建設された大鳥居②

岡垣歴史文化研究会 石田健次

今回は、「大正拾四年氏森神社鳥居建設記録」(山田区保存)から、建設請負人の決定に始まって鳥居が完成するまでの経緯を見ていくこととする。

【建設請負人】

建設請負人は、大正14(1925)年1月5日に入札を実施し決定された。入札に参加したのは6人で、宗像郡東郷村に在住の者が請負金額550円で落札している。

鳥居の石材運搬は、海老津駅までは建設請負人が負担し、海老津駅から鳥居建設場所までは氏子(区民)で運搬することになっている。

【鳥居建設願】

鳥居を建設するにあたって、「鳥居建設願」を社掌と氏子総代の連名で遠賀郡長宛に提出している。建設願には、「建設する鳥居は石造りであるため将来に

亘って維持費を必要としないので許可願いたい」と記載されている。

鳥居は、花崗岩造りとし、鳥居前に3段の石造り階段と鳥居横に巾8尺(約2・40メートル)の車道を新設することとしている。

【石材の運搬】

石材の運搬は、国道を通るごとと重量物であるため、「重量物運搬許可願」を折尾警察署長に提出している。それによると、石材は海老津駅から建設場所までを2日間に分けて運ぶことになっている。運搬の方法は、四輪馬車を2台連結して、1回あたり1個の石材を積載し、牛馬は使用しないで人力で運搬するとしている。国道の途中にある矢矧川に架かっている橋(現在の山田橋)が架け替え工事中で仮橋であったため、この仮橋を補強している。

また、当時は海老津駅から国道へ出るまでの間と山田小学校付近に勾配の大きな下り坂があったので、慎重に運んだと思われる。このように、石材は多くの区民の協力により運ばれている。

鳥居本体の石材は、2月13日の午後1回、14日に2回で運んでおり、18日には石段用の石材を取り寄せている。

【鳥居の完成】

鳥居の建設は、2月22日から行われた。建設記録の中には、具体的な建設の様子には記述されていない。重機などが無い時代に足場を組んでの区民総出の建設であったことが想像される。建設は翌23日の午後3時に終了し、餅まきを行い、午後4時から上棟式を実施している。その後は、宴会を催し余興も行ったと記録されている。



▲氏森神社の鳥居

ので、氏森神社の客殿で区民皆が参加して、鳥居が無事に完成したことを盛大にお祝いしていたと思われる。

総経費860円83銭で完成した大鳥居は、現在、山田区の象徴的存在として威風堂々とした佇まいを見せている。